



ドローン（小型無人機）物流による地域課題の解決を図る県は、佐伯市の離島と竹田市の無医地区で遠隔診療や処方薬を届ける実験を始めます。

① 佐伯市の離島、大島の診療所ではどんな実験をしますか？

# ドローン配送 次は処方薬

## 県、佐伯と竹田で来年実験



④竹田市久住町の大久保病院から週1回、診療のため医師が訪問する市中央公民館宮砥分館＝竹田市宮砥  
⑤佐伯市の大島に処方薬を運ぶために使用されるドローン（イームズロボティクス提供）

ドローン（小型無人機）物流による地域課題の解決を図る県は、佐伯市の離島と竹田市の無医地区で遠隔診療や訪問診療を受けた患者に迅速に処方薬を届ける実験を始める。医療分野での配送実験は初めて。実用化されれば地域の医療水準向上につながると思われる。

## 離島と遠隔、訪問診療の患者に

② 無医地区の竹田市宮砥ではどんな実験をしますか？

佐伯市の離島、大島の診療所には、海を挟んで約4キロ離れた同市鶴見の丹賀診療所から医師が来島、直接受診する機会が週1日しかない。

実験は住宅地図大手のゼンリン（北九州市）が事業主体となる。来年1月から大島の診療所に遠隔医療用のタブレット端末を設置。丹賀の医師が島の患者をオンラインで診察し、すぐに処方薬を配送する。

無医地区の竹田市宮砥では同市久住町の大久保病院の医師が週1回、市中央公民館宮砥分館で高齢者らの診療をする。急な症状で訪れた患者に対し、適切な処方薬が足りないケースも発生するという。

ドローンの販売・修理を手掛ける事業主体のイー・ディー・イー（別府市）が、医師から連絡を受けて不足する薬を市内で調達。数時間以内に同分館に届ける。実験は来年2月から開始の予定。

県は2017年度から山間地の「買い物弱者」支援などの実験を続けている。津久見市では無垢島に日用品や医薬品を届ける海上輸送を開始。豪雨災害が相次ぐ日田市では、孤立した集落に救援物資を届ける実験を来年1、2月ごろ始める予定だ。

広瀬勝貞知事は「県内各地でドローンの実験を重ねることで、県民に便利なものとして受け入れられるようになれば、実用化に近づくことを期待している」と話した。（船山善弘）

③ 県はこのほかにどんな実験をしていますか？今後始める予定の実験も含めて書いてください。

④ あなたなら、地域や人々の暮らしのためにドローンをどのように活用しますか？自由に書いてみよう。